

教育研究所だより

令和3年度 No.14 (379号)

令和3年11月2日(火)

発行所：いの町教育研究所



ぷっくりハート推進事業 本川中公開授業

10月20日(水)に、本川中学校の公開授業と学校版寺子屋を行いました。教育委員や他の学校、保育園から17名の参加者がありました。



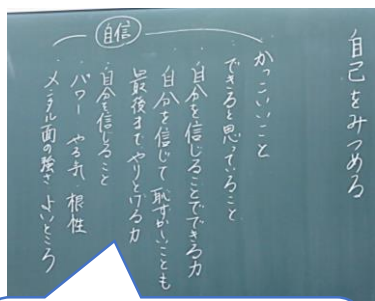
公開授業 第2学年 道徳「『自分』ってなんだろう」

生徒に自信を持たせるきっかけにするため、グループでお互いの良いところを伝え合う、という活動でした。

まず、授業者の田村怜子教諭は「自信」という言葉の意味について生徒に考えさせたり、全校生徒に実施したアンケート結果を示したりして、本時で考えさせたいことについて生徒に意識させていました。

次に、今まで自分の中に自信があると感じた経験について生徒に想起させ、「自信の種」を増やすため、グループで友だちの良いところを伝え合う活動(言葉のプレゼント)をしました。

その後生徒は、一人ずつ本時の感想を発表し、授業の終わりには、授業者から生徒たちの良いところについて書いた手紙を渡しました。



一人一人違っていい、という安心感があるので、全員発表をすることが当たり前になっています。



交流の際の注意点(立って、にこやかに、体を向けて)を丁寧に指導していました。



リモートで参加の生徒がいましたが、参加できたことをクラスの仲間と一緒に喜んでいました。

田村先生より



半年間、横のつながりをつけたい、自信を持たせたい、前向きになってもらいたいという思いで学級経営をしてきました。最後の発問(友達に良いところを伝えてもらって、どう思ったか、これからどうしたいか)に迷いがありましたが、生徒が思いがけない発言をしてくれ、自分の自信になりました。日頃は、価値語写真を掲示したり、成長ノートでやり取りをしたりして生徒との関係づくりをしています。

研究協議

- 「本川日誌」を成長ノートのように活用している。子どもが書いた分量と同じだけ返信している。(森田教諭)
- ポイント2の達成のため、生徒が個人で考える時間が十分にあった。それはとても静かな時間で、先生は口を挟まなかった。三つ目の活動の際、「疑問に思ったことは聞く」とあるが、質問できる内容ではなかった。質問をさせるなら、「自信を持てた時」の場面で、「〇〇さんは何でそう考えたと思う？」と聞いても良かった。(参観者)

○菊池先生より

五時間目に社会科の授業を見ましたが、そこでも「いい空気だ」と感じました。授業中、生徒の発言で周りから明るい笑い声が出ました。笑顔が出るクラスと、明るい笑い声が出るクラスでは、レベルが違います。自由な立ち歩きができる、困ったときは周りに聞ける、というのは日々の積み重ねです。



学校版寺子屋

①目指す授業とは

話を聞ける集団というのは「黙って先生の話聞きましよう」ではなく、「異論を承認する」「健全に批判的な聞き方ができる」、学び合える集団ということです。授業においては10割ほめましよう。生徒指導中に叱ることはあっても、授業中に怒るというのは授業者の敗北です。

②なぜほめるか

「発言した子だけが自己開示をしてえらい」ということではなく、「周りで温かい笑い声を出した子も、その子を認めてえらい」と伝えたいです。集団を成長させるためにほめるのです。

③思考を深めるために

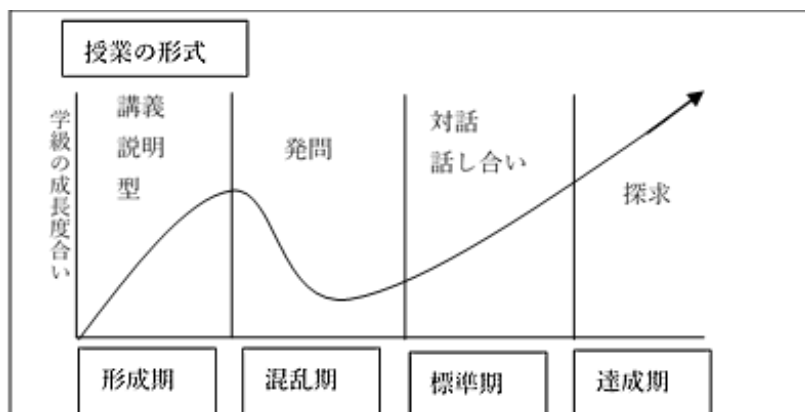
- ・AvsBの状況を作る(ディベート)
- ・解が多様(発問の工夫)
- ・教師の介入
- ・ゆさぶり



このようなものを準備しなければ深い思考にはなりません。具体と抽象を行き来する等、教師の介入やゆさぶりが必要です。

④タックマンモデルとつなげて

学級の成長度合いに合わせて、授業も変わってくると思います。(右図参照)



おわりに

公開授業日は、本川中学校の先生方や生徒の皆さんが、参観者を温かく迎えて下さいました。本川中では、価値語写真に先生の思いを添えて、各教室や廊下等の目につく場所に掲示していました。安心・安全な温かい学級・学校経営に努めている様子が見られました。本川中の皆様、ありがとうございました。

